

次世代アグリビジネス産業の現状と今後を学ぶ

東信州



詳しくは
こちら

次世代農商工



連携セミナー

参加者募集!

次世代アグリビジネス産業の創出に向けて、長野県内のみならず全国各地から新しい農商工連携の実践的取り組みを進めている講師を招き、取り組みの現状と今後の方向性を学ぶセミナーを開催します。

※本事業は、長野県元気づくり支援金を活用しています

全国各地から先進的な実践者が大集合！

第1回	新しい農業の形—異業種参入・6次産業・多品目栽培
2022 8.9 火	講師 田中浩二氏 株式会社かまくらや代表(松本市) 中村敏樹氏 有限会社コスモファーム代表(香川県高松市)

第4回	農福連携の新しい歩み—制度と実践事例を学ぶ
2022 11.8 火	講師 長野県福祉健康部障がい者支援課 長野県ヘルプセンター協議会 渡邊宥照氏 社会福祉法人E.G.F総合施設長(山口県萩市)

第2回	地域づくりの拠点 道の駅・直売所の新しい形
2022 9.13 火	講師 万年正彦氏 道の駅越前おおの荒島の郷 立ち上げ駅長(福井県太野市) 伊藤良夫氏 上田市丸子農産物直売加工センターあさつゆ代表(上田市)

第5回	農業と観光の結合—新しい体験型農業の道を探る
2022 12.13 火	講師 廣田裕二氏 飯綱町ふるさと振興公社社長(飯綱町) 羽場友理枝氏 伊那市長谷さんさん農園代表(伊那市)

第3回	新しい食品流通—農産物・加工品の次世代物流方法
2022 10.11 火	講師 太飼浩一氏 生産者直売所アルプス市場代表(松本市) 長野県内卸売市場関係者(交渉中)

第6回	中山間地農業集落・中心市街地商店街—若者たちの挑戦
2023 1.10 火	講師 細谷啓太氏 株式会社WakkaAgri代表(伊那市) 梁川真一氏 街なか産直新鮮館おおまち店長(岩手県)

※この他に、道の駅越前おおの荒島の郷への現地訪問研修を予定しています。(一部実費負担があります)

■開催日 毎月第2火曜日(2022年8月~2023年1月) 13:30~16:30

■会場 AREC 4階会議室 (上田市常田3-15-1信州大学繊維学部内)

■開催方式 会場に参加していただくリアル開催とオンラインで参加していただく

Web開催のハイブリッド方式 ※会場の定員により、オンライン参加をお願いいただく場合があります。

■参加費 無料

※但し現地視察のみ宿泊代など実費負担になります。自由参加、ご希望を募ります。

<https://forms.gle/tyg2RYJPUH6AwZzh7>

お申し込みは
こちらから



■お申し込み 参加希望の方は、右のグーグルフォームより登録をお願いします。

■問い合わせ 株式会社産直新聞社 担当:毛賀澤明宏 TEL:0265-96-0938 mail:info@j-sanchoku.net

東信州次世代産業振興協議会 担当:前沢・川上 TEL:0268-23-5396

主催 東信州次世代産業振興協議会

東信州 次世代 農商工連携セミナー

開催趣旨

東信州次世代産業振興会では、次世代アグリビジネス産業をイノベーション産業の柱として位置付け、重点的に支援しています。東信州は農業リソースに恵まれていますが、農家の高齢化・農業人口の減少や耕作放棄地の増加などの問題を抱えてもおり、農業関係者だけでなく製造業など他産業からの参入を含めて農商工連携・6次産業化の方向で新たな展開が期待されています。

そうした中、この度、長野県の元気づくり支援金制度を活用して、長野県内のみならず全国各地から新しい農商工連携の実践的取り組みを進めている皆さんを招き、取り組みの現状と今後の方向性を学ぶセミナーを開催することにいたしました。

環境にやさしい多品目栽培の新しい農業、他産業からの参入による遊休農地の活用、地産地消の町づくり・地域づくりの拠点として重要な道の駅や直売所の状況、障がいを持つ方々との新しい協働を生み出す農福連携、都市住民の関心が高まる体験型農業の新しい形……など、重要なキーワードに沿って、全6回を予定しています。他に1回、現地視察（自由参加）も計画しています。

次世代アグリビジネス産業の創出に向けて意義のある学びができると思いますので、積極的にご参加ください。

多彩な講師ご紹介

第1回



田中 浩二氏

株式会社かまくらや代表(松本市)

自動車販売業を営む傍ら、遊休農地を活用してソバの栽培から加工・調理提供まで一貫した新しい農業に挑戦している。遊休荒地対策で平成25年長野県知事賞、平成26年農林水産大臣賞受賞

第1回



中村 敏樹氏

有限会社コスモファーム代表(香川県高松市)

香川県を拠点に年間200種類の野菜を栽培し有名ホテル・デパートの他、全国のマルシェで直接販売する大型農家。野菜ソムリエ協会などの講師や、各地のマルシェの立ち上げ指導も行う。上田市塙田出身。

第2回



万年 正彦氏

道の駅越前おおの荒島の郷 立ち上げ駅長(福井県大野市)

開駅1年で、当初目標の2倍を超える80万人の来場者を得た道の駅の企画・立ち上げ段階からの責任者。ネクスコ傘下の中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋の営業部長で、地域の農家や商店と連携づくりで重要な役割を果たす。

第2回



伊藤 良夫氏

上田市丸子農産物直売加工センターあさづゆ代表(上田市)

長野県を代表する農産物直売所の代表。1985年の事業開始以来、一貫して農家が主体・主人公の直売所運営を目指し、直売所経営は安定。氏の企画力・リーダーシップ・運営手法は高く評価されている。次世代継承の在り方を模索中。

第3回



大飼 浩一氏

生産者直売所アルプス市場代表(松本市)

1996年の創設以来、「生産者がもうからなければ直売所は存在意義がない」をモットーに事業展開。「土づくり」からの直売事業の先駆者。若手農家の収益増を目指し、市場との連携、学校給食への出荷、独自のネット通販などを進めます。

第3回



長野県内卸売市場関係者(交渉中)

農家・直売所から都市や他地域の販売店・レストランなどに農産物を直送する新たなルート開発が急ピッチで進んでいます。背景には質の良い新鮮で安心できる農産物への需要の高まりがある。県内卸売市場の関係者にその状況を聞く。

第4回



長野県福祉健康部障がい者支援課

長野県ヘルプセンター協議会

「農福連携」という言葉をよく聞く。国や県のサイドからはどのような目的・位置づけの下に、どのような制度・仕組みが提案しているのか? 実際にどのような取り組み事例が生まれているか? 長野県の2部署の担当者から聞く。

第4回



渡邊 宿照氏

社会福祉法人E.G.F総合施設長(山口県萩市)

山口県萩市の山間地域で障がいの方と共に農業に取り組むEasy Good Farm。航空機で首都圏に運ぶ「空飛ぶメロン」が有名。福祉事業所として日本で初めて6次産業化認定事業者となり、学校給食用の野菜加工などにも取り組んでいる。

第5回



廣田 裕二氏

飯綱町ふるさと振興公社社長(飯綱町)

北信の飯綱町で、リンゴの特性や栽培方法を学び、年間に複数回同町を訪ねる「りんご学校」が通算6年目を迎えた。受講生はのべ400組。この取り組みの特徴は何か? 都市農山村交流が注目される中、体験型農業の新しい形を聞く。

第5回



羽場 友理枝氏

伊那市長谷さんさん農園管理人(伊那市)

伊那市の山間部、旧長谷村で「有機栽培」をキーワードにして、都市農山村交流を進め、地域農業の活性化を図っている。4年目を迎えた有機栽培の「さんさん農園」を企画・運営する。移住家族が増加中という実状を聞く。

第6回



細谷 啓太氏

株式会社WakkaAgri代表

南アルプスの山懐深く、上流には汚染源が何もない棚田で、輸出用の農薬・肥料不使用の高規格「自然栽培米」をつくる。高齢化で耕作の維持が困難な一集落の棚田100枚を借り受け、若者の力で耕作。徐々に賑わいを取り戻しつつある。

第6回



梁川 真一氏

街なか産直新鮮館おおまち店長(岩手県一関市)

岩手県一ノ関市で空洞化する中心市街地の再活性化を目指す若者グループのリーダー。全国でも希なアーケード商店街のパチンコ屋の隣にある産地直売所に、近郊の若手農家などから出荷物が集中。ここを拠点に賑わいづくりが進む。